

会 議 録

会 議 名	令和 7 年度第 1 回 辰野町図書館協議会
開 催 日 時	令和 7 年 7 月 16 日（水） 午前 9 時 00 分～9 時 50 分
場 所	辰野町立辰野図書館 2 階会議室
出 席 者	委員 6 名中 4 名、教育長、館長、事務局 3 名
会 議 次 第	1. 開会のことば 2. 委嘱状交付 3. 教育長あいさつ 4. 協議事項（進行 会長） 1) 令和 6 年度図書館利用状況 2) 令和 7 年度蔵書点検結果報告 3) 令和 7 年度図書館事業について 4) その他 5. その他 6. 閉会のことば
会 議 結 果	4. 協議事項（進行 会長） 1) 令和 6 年度図書館利用状況について 2) 令和 7 年度蔵書点検結果報告 3) 令和 7 年度図書館事業について 4) その他 事務局から一括説明し、質疑を経てご了承いただく。
発 言 者	発言の内容
教 育 長	改めましておはようございます。 大変暑い中お越しいただいた。今年は 6 月半ば頃から 30℃を超える最高気温を記録している。報道によると、今年も大変な猛暑になりそうだとされている。いよいよあと 1 週間で、町内の小中学校も夏休みに入る。猛暑の夏休み。そんなときに外での活動が制限されてくると、図書館のような場所の存在価値が高まってくる気がする。 いま、課長と話しをする中で、町図書館はクーリングシェルターという位置づけになっている。暑い中、熱中症予防のために一時的に避難をしながら、図書館で本を読んだり活用する使い方もある。 さて今年は様々な周年記念の年になっている。辰野町が新町発足 70 年というのはご存じかと思う。戦後 80 年、ワイトモとの姉妹都市提携 30 年という年。 なかでも、「戦後 80 年」。これに関わっては、町図書館はいち早く昨年度の内から、図書館として町民に理解していただくか、戦争とは、平和とは何のかを考えていただく、そんな企画を立てていただいた。おかげさまで順調に一つ一つのイベント企画が組みまれているありがたいと思っている。 なかには 80 年経ち、戦争は過去のことだと思っている人も少なからずいると思う。もう過去の歴史の 1 ページになってしまえばよいが、最近の情勢を見ると、この平和な社会が突然破られてしまう。ウクライナにしてもガザにしてもイランにしても、突然破られてしまうことが現実起こっている。戦後 80 年、これを機に改めて平和と戦争に

	ついて考えてみる必要があると思う。特に戦争体験者が年々減ってきている。今度は私たちが、戦争を体験していないが知っていることを次の世代に向けて語り継いでいく、そんな責任がある。自由にものが言える、自由に行きたいところに行くことができる、自由にやりたいことができる。そして一番は、一人ひとりの人権が守られている。平和な社会、これはやはり改めて考えていかななくてはいけないと思っている。 図書館以外でも、教育委員会、特に公民館や社会教育の関係、役場でも戦後 80 年を受けて、様々な企画を他の市町村に先駆けてやっている。非常にありがたいことだと思っている。これからの図書館、後半の活動についても期待している。 今日は今年度第 1 回目の図書館協議会になる。よろしくお願いします。
会 長	改めまして皆様おはようございます。 今、宮澤先生からとても大事なお話をいただいた。 今年は終戦 80 年という大事な節目の年を迎える。その中で、世界では非常に危うい状況が続いている。新たな戦前というような言葉も飛び交っている。そういう戦前にはしてはいけないと、私自身も思いを新たにしている。 後ほど話があるかと思うが、今年の図書館の夏の企画の中では、平和関連の催しがある。図書館の役割も大変重要になってきていると、改めて持っている。 それでは会議に移らせていただく。スムーズな運営を心がける。どうぞよろしくお願いいたします。
事 務 局	(協議事項を一括説明)
会 長	説明を受け、質問や意見等あるか。
委 員 A	(年代別・時間帯別・曜日別利用状況の資料について) 予想通りの結果だった。 70 代以上の利用者が多い。7 月に入ってから新聞にもでていたが、図書館の数が多い自治体の高齢者の健康度合いが良い。高齢者の健康にとって図書館の状態が関係あるのではないか、という記事。やはり早期教育というような、小さいうちから親子で本に親しんでもらいたいのが最重要だと思う。その反面、高齢者の心身の健康、具体的には脳神経系や認知症の発症が相対的に抑えられる。これだけ利用されてるということは、高齢者のニーズにマッチし応えているのではないか。 ただ気になるのは、学齢期、10 代 20 代の利用者数が少ないこと。学校に行くようになると学校図書館しか利用しない。子どもが小さいうちは子どもを連れて図書館を利用しても、小学校に上がるとしばらく利用しなくなり、落ち着いてある程度時間ができてから再び利用するようになる。そんな人たちがほとんどだと思うので、この数字はもったもたと思う。中学生くらいの年代を何か巻き込めないか。 SNS の状況を見て、紙媒体で生きてきて、SNS をできるだけ使わないようにしているが、やはり気になり見ると、何かすごいことが起きている。 ロシアの選挙介入。いかにも中立な顔をして、ものすごく介入して SNS の操作をしている。要するに、トレンドやタイムラインに入るように、最初は bot 集め、お気に入りにとめると、多くの人に選挙情報が目につく。狙っているのは日本社会を混乱させ、分断を進めること。どこの党に勝利してほしいというわけではなく、日本社会にとってマイナスになるよう、デマやフェイクを流している。そういう情報が多くの人に触れる

	ようにしていることが話題になっていた。 アメリカの選挙やルーマニアの大統領選挙でもロシアの介入があった。それが日本に来ているのではないかと話題になっていた。 もう一つ、新聞のトップの記事。20代30代の中で、選挙情報を得る方法がSNSだけの人がとても多い。そういう人たちはどこを支持するか。新しくできた党は、SNSに力を入れている。SNSについてはオールドメディアといわれている新聞社もファクトチェックを始めたが追いついていないようだ。 SNSの影響が大きい今の社会に対して、図書館でも何かできないか。10代20代に対して、SNSに関して何かできることはないかと思う。
会 長	今の話を受け、中学校あたりでは、SNS利用について学習する機会があるのか。
教 育 長	中学では毎年研修をしている。ここ数年は、辰高生にお願いしている。高校生の仲間がだまされたトラブル等の事例を話しながら、中学生に伝えている。子どもたちも真剣に聞いていたという報告がある。 自分の得た情報がフェイクかどうか、中学生が判断するのは難しいと思う。中学生だけでなく、新手の詐欺にどんどん引っかかってしまう状況がある。SNSからの情報のほうが簡単に手に入ってしまうが、図書館の本からの情報は大事。
委 員 B	中学の先生方も、SNSの使い方をとても心配しているので、学校図書館でもSNSに関する本を購入している。特別に展示していたことも。フェイクニュースなど、情報をすべて信じるのではなく、自分で気を付けていくというタイプの本を、年2.3冊購入している。しかし、なかなか借りていくことにはつながらない。 最近AIが怖い。家で作文の宿題があると、大丈夫なのかと思う。先生方からしても、おかしいと思うときがある。特に国語の先生は、その子が書いたものをかなり見てきているので、気になるところは子どもに聞いたりしている。 ある程度学習が備わったうえで、助けを借りるものとして使うのはいいが、まだ蓄積されていない状況で使い、それが評価の対象になってしまうのはどうなのか、と心配している。
会 長	自分の頭で考えるという基本的なことがなくなっている。 高等学校の国語の教員の経験があり、小論文を書かせていたりした。本当に子どもが書いたのかと考えるときもあったが、今は全く分からない。文芸作品、俳句や短歌でもAIが作れてしまう。数年前では新聞に「この中でAIが作ったものはどれか」というクイズがあったが、今は判別がつかない。長い論文の要約をAIが作ってくれるような役立つものがあるが、自分の頭で考えさせる課題として子どもたちが取り組んだときに、安易に使ってしまう。大変な時代だと思う。
委 員 A	永井玲衣さんの『水中の哲学者たち』という本があり、哲学対話というものを実践している。学校などでモヤモヤすることを何でも話す。自分の言葉で話すことや、言葉が出るまで話すことなどルールがあるが、そういう実践をしている。そんな会があればよいと思う。例えば中学生は、対面で話し合う機会がどれだけあるのか。
委 員 C	読みきかせをしていると、辰野の子どもたちは保育園から読みきかせが習慣となっているため、聞く姿勢がとてもよい。一緒に話を楽しむところで、本とのつながりができている。ただその場ではいいが、現実の生活で自分で本を取り読むことにつながったり、

	図書館を利用しようとする繋がるきっかけが何かあるとよいと思う。 今年は戦争に関するイベントが多いのはとてもよい。戦争を知らない子どもたちに、今の時点で知ってほしいというところがある。 来年度以降は、子どもたちが興味を持つことを新しく企画してもらいたい。 昔、図書館で科学実験教室があった。子どもたちが「図書館で面白いことをやっているから行ってみよう」と誘い合って来れるようなイベントがあるとよい。親がついていなくとも楽しめるようなイベントだと、新しい層の利用者につながるかもしれない。そういうイベントで、スマホなどから少し外れてくれるといいなと思う。
会 長	数年前、保育園の先生のお話のなかで、移動図書の日に子どもたちに「おうちの人に本を読んでもらった？」と聞くと、読んでもらえていないということもある。子どもたちは期待して本を借りていくが、借りるだけになってしまっている。今の時代で、親も忙しいが、その時間を取ってもらうことも大事。同時に、読みきかせボランティアの方にもさらに努力を期待したい。 どこの自治体か定かでないが、理科の実験を子どもたちが身を乗り出して見ている写真を見た。宮澤先生、理科の先生だったということで、子どもたちの興味を引くような実験を、本の紹介と同時にやることは難しいことか。
教 育 長	子どもたちが興味を引く「色が変わる」というようなものはある。
事 務 局	毎年春に「科学工作教室」を開催している。毎年定員いっぱいになり人気がある。
会 長	講師の先生への謝礼や準備にお金がかかると思うが、地元の人たちでもできる人たちがいるのではないかと。情報を集めてお知らせいただきたい。
委 員 B	貸出数と実際に読んでいるか、ここが一番大事だと思う。貸出数が皆さんに利用されていると分かってもらうためには大事な数だが、本当に子どもが本を好きになってきちんと読んでいるかとなると別の話。ここを計るのは難しい。司書として何年も付き合っていると、どんどん読む本が変わっていったり、本について話をすると、確実に読んでいることがわかる。本を読むと確実に学力が上がっていくので、それを担任の先生方から話を聞くと実感する。 貸出数にこだわりすぎるのは怖い。本を好きになってもらうのが一番大事にしている。小学校の図書館での司書をしていた時は、特に男子は厚い読み物に移行するのが難しい。そのため小学4年生、遅くとも5年生には厚い本を読めるようにすることを大事にしていた。 今年は、読み物ではないジャンルを広げようとしていた。しかし読み物が少なくなり、読めなくなっていると感じた。子どもたちに聞いてみたところ、小学校の図書館では、歴史の漫画ばかり読んでいた子もいた。受験問題をみせたところ驚いていたので、読めないと困るという話をしたばかり。中学に来てから読む力をつけるのは難しい。 読書感想文のために図書館に来たとき、自分の意見を持てる本を選ばなければいけないという話をしたこともある。 近年、中学3年生になると貸出数が増えている。選書会をやることで、興味を持って貸出が伸びる手ごたえを感じた。教室が遠くなったところに出張貸出もしている。 なるべくいろんなことをコミュニケーションを取り、図書館に来たときに「この本あ

	るよ」というようなことしか中学ではできない。司書会でも、小学校の頃からやってもらわないと、という話をした。小学校で本を好きになり、読めるように頑張ってもらいたい。
会 長	学校現場で先生方は忙しいと思うが、自分の力で考えるということを養ってもらいたい。 電子機器が社会に広がっている中で、AI 対人間のようなことにつながる話がでた。図書館としての役割を考えていただいて、今後の参考になればと思う。 以上で、会議を終了いたします。

閉 会